

自分が普段新聞を読むのは、新聞
ノートの記事を選ぶときくらいだ
から記事を書いている記者の気持
ちをしれてよかった。取材をする
ときに、相手の気持を考えている
ことが改めてわかった。新聞に雑
誌みみたいな付録がついていたら読
もうと思う。

- 記者のことがよくわかった。
- 新聞を読むことがとても大切だ
と思った。
-

さいとう記者の講演を聞いて
短いネットニュースでも試行錯誤
を重ねていることがわかりまし
た。新聞に面白漫画を付けたりし
て新聞を読んで貰う人を増やした
らいいと思う

今日の話聞いて共同通信はとて
も大変だということがわかった。
相手が思い出したくないことを思
い出させないといけない、精神的
にもとても苦しい職業なんだとわ
かった。みんなが新聞を読むため
のアイデアは、新聞を一度無料で
配って、新聞の良さを伝えてみた
らいいと思う。

私はよくネットからニュースを知ったりすることが多くても、そのニュースをどこの会社で作っているかを知らなかったけど、共同通信社という会社を作ったりしていると聞いて、もし今後この会社の記事を見つけたりしたら積極的に読んでいこうとおもう。キャラクターが話しながら、アニメみたいにニュースを紹介してくれるものがあったらもっとニュースを見る機会が増えるんじゃないかなと思う。

久しぶりに記者さんの講演会を聞いて、なるほどと思うことがありました。読売新聞や神戸新聞などと違って自分で書いた記事を他の新聞社に渡して記事にしてもらうというやり方もあると知りました。斎藤さんが言っていたように自分の知らない面白さをその面白さを知っている人に教えてもらうことで興味が膨らむというふうに言っていてとても納得いきました。私も、授業で新聞を読まなければいけないときにしか新聞を読んでいませんでした。紙の新聞でなくても身近なスマホでも読むことができるので気になったことは調べていこうと思いました。私は、紙の新聞を取っているときには、4コマ漫画だけは読んでいました。だから、若者でもわかりやすいように難しい問題は漫画などにしてわかりやすいようにすれば、若者でも読んでくれると思います。

感想

新聞記者という仕事の大変さが伝わってきた。一つ一つの記事の裏側に様々なエピソードがあるのは感慨深い。取材する方の辛いことも嬉しいことも聞かなければならないというのは大変なので、取材される側だけが大変なのではないということを感じた。新聞に対して私的にははしょうがないことだとは思うけど硬い感じなのが読みづらく、もう少し柔らかい感じになれば読みやすくなりそうだと思う。

斎藤記者の今日の話聞いて、斎藤記者も中学三年生のときに将来の夢がそこまでしっかりと決まっていなかったと言っていて、私も全然夢が決まっていなかったので少し安心した。また、恩師の話から人との繋がりによって自分の人生が変わることもあるのだと思った。私は家で新聞を読むことは全然無かったが、毎週提出の新聞ノートがあることによって少し読むようになった。いざ読んでみると興味のある記事があったりするので、まず記事を見てみるのが大切だと思う。なので、若者がよく見るSNS（インスタやティックトック）で情報を出していくことが若い人たちにに見てもらうきっかけになると思う。

最近では家でも新聞をとるのをやめてしまっ
て新聞を読む機会が減ってしまったけど学
校の宿題の新聞ノートを通して自分の興味
のある記事を探していきたいと思った。
紙の新聞は値段が高かったり、若者はあま
り買わないイメージがあるから、TikTokや
インスタなど、どこでも気軽に見れるSNS
に記事が乗っていたり、ニュースがあると
ちょっとだけでも見てみようとかそれが面
白かったら紙の新聞を買ってみたりする
きっかけにも繋がっていくと思った。

私にはまだ将来どんな職業に付きたいのか決まっていなくて、この先どうしたらいいかわからないけれど齋藤さんのように高校に入ってから見つけるのもいいなと思いました。普段新聞を読むことがないのでインターネットでも紙でも読みたいなと思いました。質問というか聞きたいことなんですけど、秋田、愛媛、神戸を行き来してなにかカルチャーショック的な地域差で驚いたことがありますか？方言が違ったり文化が違ったり、町並みや人口など様々な差があると思うんですけどなにかありますか。私はそういう県によっての文化の違いなどが好きなのでそういう内容の新聞を読みたいです。

感想

今回の講演を聞いて思ったことは、新聞に載っている記事の取材の裏側がしれてよかったと思いました。取材の苦労や楽しみなどいろいろ聞けておもしろかったです。新聞が、もうすこし字が少なかったら読む人が増えるんじゃないかなと思いました。共同通信という言葉が初めて聞いたので、機会があればまた調べて記事も読んでみたいです。

まず、朝日新聞や神戸新聞以外にも共同通信というものがあることを初めて知った。普段はラインでニュースを見ることが多く、テレビや新聞を見ることは少ない。ラインで見るニュースも自分が興味があるジャンルのものしか見ないので、今後はネットの新聞を見てみたりしようと思った。私は新聞に書いてある言葉が難しかったり、文字が多かったりするから読まないのも、漫画みたいに簡潔にまとめたものがあればいいなと思う。新聞記者の仕事は大変そうだけど、様々な経験ができてとてもやりがいのある仕事だと思った。共同通信の記事も見てみたい。

感想

今日の講演会を聞いてわかったことは記者には怖いことや大変なことが知ることができた。それにオンラインと対面での取材の怖さとかを知ることができた。記者はとても大変な職業だと思いました。自分はスポーツの話題とかだと読みたいなと思います。

共同通信社というものを初めて知って、自分が読んだことのある記事が書かれている場所を知れてよかったです。記者の仕事は、想像以上にハードで、普段、新しい情報をすぐに知れることに感謝したいです。私の家では毎日新聞を購読しているのので、家でまた新聞を読もうと思いました。新聞は大きくて家以外では読みにくいから、電車などでも読みやすいように、漫画本くらいのサイズの新聞ができてほしいです。

話を聞いて、斉藤さんが先生に「優しい記者」になれと言われたあと、それ通りにするのが難しかったということを知り、わかったのは言われてもそれ通りにすることが難しいということでした。自分ではそれをしていくつもりでも実際そううまくいってないことにも気づきました。また、アニメの考察やSF系、非現実的な記事を読んできたいと思いました。

感想

今回の講演会で新聞の1ページ1ページにいろんな思いや苦勞が詰まっているということを知ることができて良かったと思っています。新聞記者は国語力だけ必要だと思っていましたが、運動能力など他の能力も必要だということにか気づきました。

新聞は文字数が多いのももう少し文字数を減らしてもらえればもう少し読む回数が増えると思います。あと、自分たちに関係のある記事を今よりも多くなれば新聞を読む人が増えると思います。

記者の方は事件や事故で亡くなった方の話を遺族の方に話を聞かないといけないから、遺族の方も記者の方も辛いし大変だということが分かりました。私は基本LINEニュースを流れてきたら見るくらいなので正しい情報を得るために新聞も読もうと思います。

〈読みたくなる新聞〉

文字がいっぱいあると見にくいから、少しでも文字に色がついていると見やすいと思いました。また、たまに一つの記事がどこからどこまで書かれているかが分からない時があるので一つ一つ線などで目立つよう囲ってあったら見やすいと思いました。

今、スマホやタブレットなどで情報を得られるので、新聞を読む機会が少なくなっているけど今回の斎藤記者の話聞いてスマホだけでなく新聞を読もうと思いました。新聞には裏で頑張っている人がいて斎藤記者のように5時間ぐらいつと立っていたり、15キロぐらい自転車を漕いで取材をしていると言っていたので大変だと思いました。新聞には暗いニュースが多くなっているのももう少し明るいニュースも載せたら若い人たちも新聞を買って読むようになると思いました。新聞記者は、あまり楽しいイメージがなかったけど色々なところにいけるのでいいと思った。秋田県には、新聞部や新聞スクールという部活があることにビックリしました。

現在、新聞という紙のメディアは衰退していて、これからも衰退していくと考えられることが分かった。それでも新聞を身近なものにしようと新聞社はアイデアを出し続けていると分かった。その努力を知ると私も新聞を読もうという気持ち湧いた。最近メディアの情報を100%信じては行けないということをよく聞くが新聞も、テレビも、ラジオも、SNSも、人が作成しているということに気付かされ、確かに100%信じることは危険だと思った。

偏見ではあるが、縦読みの文面は「難しそう」「長そう」というイメージがある。ならば新聞を縦読みではなく横読みに変えればいいのではないかと考える。又、文字が小さいことにも同じようなイメージがあるため、全体の文字を大きくすることも、一つの案だと考えた。

感想

記者は、取材をするために他の県に移動をしてまで聞き取りをするのがすごいと思った。こんなに苦勞して調べられた情報を新聞にしても最近、若者は新聞を読まない傾向にあるのが残念だった。今は、スマホがあればすぐに情報を手に入れられるようになっているけど、そのすべてが正しい情報とは限らないので、できるだけ多くのメディアを利用していかないとだめだなと思った。記者の仕事は、対面で喋ることしかないと思っていたけど、オンラインでの情報入手というやり方もあることを知った。しかし、対面のように情報提供をしてくれる人の感情や何を思っているかがオンラインでは捉えづらかった。新聞をより多くの人に読んでもらうには、中学生向けに簡単にした記事を作れば良かった。

取材をするときの気持ちやその背景にはそんなことがあったんだと知れて良かったです。斉藤記者の新聞の取材をするきっかけなどを知れてよかったです。汗だくになりながら取材を頑張る斉藤記者はすごいなと思いました。子供用と大人用の新聞を分けられていたら、自分は大人用の新聞でわからないところがあっても子供用を見ればだいたい何を書かかかっているかが分かるので、自分は子供用と大人用に分かれていたらどちらも買って読もうと思います。

私は、今回の講演会で初めて共同通信というのがあることを知りました。家で新聞をとってありますが、ほとんど読むことはありません。新聞は、文字が多いうえに広げると大きいので、本みたいに気軽に読みにくいなと思います。特に政治の話題だと難しいと感じ、読もうと思いません。私なら、自分の生活に関係があるのだと興味のない分野でも少し読んでみようと思う気がしました。

私なら、アイドルや俳優、タレント、モデル、芸人など芸能人にインタビューした記事や、関係のある記事があれば新聞を開き、その記事を見るついでに他の記事も読むようになると思いました。他にも、YouTubeで記事を読み上げている動画があったりすれば、朝の準備時間に流したりするなと思いました。

評議の人たちと似ているけど、「この記事書きたかった！と思うことはあるのか」、「取材や支社で行ってみたい地域はどこか」、「自分ならこう書くのに！などと仕事病（？）みたなことを思ったりするのか」を質問したいなと思いました。

私はまだ"あの人がいたからこうなれた"というような人に出会えていないから、これから出会いたいなと思った。

齊藤さんは、もう4年もこの仕事をしているのにまだまだひよっこみたいなことを言っていて記者という仕事は何年たったら実力がつくんだろうと思いました。サッカーワールドカップの取材とか今盛り上がっていることに触れるのは少し羨ましいです。自分の知らないことを詳しく調べて新しい知識をつけられるのはいいですね。私は、最近新聞とは新聞ノートの宿題しか触れていないけど今回の講演会で新聞の良さに改めて感じました。

新聞から離れてスマホとかでニュースを見ていたけど新聞もスマホも裏は一緒で、どっちも記者が苦勞して取材をしていられたんでと感じた。また、新聞の神戸新聞や毎日新聞などにはそれぞれいいことがあって人それぞれ好き嫌いが分かれるものなんだなと思いました。そして、若者に新聞を見てもらうには、文字を少なくしてパッと見て内容もわかるようなページを作るべきだと思った。